

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791000011		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム優希の杜 1階		
所在地	二本松市岳温泉一丁目206-3		
自己評価作成日	令和5年6月18日	評価結果市町村受理日	令和5年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和5年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①職員が協力し合いながら、働きやすい体制を整え、明るい職場づくりに取り組んでいる。
②感染対策を行いながら、馴染みのある場所への外出支援や、面会の調整に取り組んでいる。
③一人ひとりの利用者にあったケアを支援できるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所が令和5年4月に移転し、積極的に新しい地域と関わりを持てるよう取り組んでいる。岳温泉旅館協同組合に加入しお祭りのお手伝いや地域包括支援センター主催の「あだたらカフェ」に参加し、認知症やグループホームへの理解を得る取り組みもを行っている。
2. 居間は2ユニット共有となっており、ユニット間の協力体制が引き出せるようになっている。壁には利用者の作品が飾られ、前事業所から馴染みの鉢植えや金魚の水槽を持ち込み、落ち着いて過ごせるよう支援している。玄関や廊下も広く明るく、安全に配慮され、職員は室温の調整や換気に心がけている。日中は、ほとんどの利用者がリビングに集まり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を反映した事業所理念と法人理念を掲げ、朝の申し送り時に唱和し職員間で共有し実践に繋げている。	法人理念と事業所理念を事業所内に掲示し、朝の申し送り時に唱和し共有に努めている。利用者個々のペースに合わせた暮らしが継続できるような支援に努め、理念の実践につなげている。なお、地域とのかかわりは触れられていない。	今年度4月に市内の杉田地区から岳温泉地域に移転しており、地域性への理解を深め、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の検討が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策緩和に伴い、近隣の地域の方々と信頼関係を築いていけるよう誕生日や行事で地域のお店を活用し少しでも交流、携わる機会を増やせる様取り組んでいる。	移転後、積極的に地域と関わりを持ち、岳温泉旅館協同組合に加入し、お祭りのお手伝い等地域に溶け込もうとしている。また、地域包括支援センター主催の「あだたらカフェ」に参加し、認知症やグループホームへの理解を得る取り組みもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あだたらカフェを開催し、地域包括主体のもと、認知症やグループホームについて理解を深めていただく機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為ホーム内での会議は行わず、手紙でのやり取りにて意見を伺っている。介護保険の変更やホーム内でのヒヤリ・インシデント・事故事例など報告し、地域との繋がりが持てるよう意見交換をおこなっている。また、運営に活用、サービス向上に取り組んでいる。	昨年はコロナ禍により書面開催で行い、毎回委員から意見をもらう工夫をしている。今年度は家族代表の他、移転先の区長・消防団員・民生委員・地区の地域包括支援センター職員を委員に委嘱し、地域の情報を得て運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当の方と連絡を取り合ったり、手続き等で役所を訪問し、連携を図っている。	行政担当に運営推進会議の議事録を毎回届け運営状況の理解を得る取り組みをしている。また、利用者や運営上の課題についても相談する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を組織し話し合いの場を設けている。チェックシートを活用し身体拘束にあたらぬか確認を行っている。	スピーチロックを含めた身体拘束チェックシートを使い職員の振り返りや拘束リスクの有無について課題を洗い出している。それを身体拘束適正化委員会(3か月に1回開催)で検討し、スタッフ会議で周知し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中鍵をかけず、見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	6ヶ月に一度、虐待防止検討委員会を開催し、身体拘束・虐待防止を正しく理解できるよう努めている。話し合った内容について議事録を回覧することで全職員に周知している。また、本社の危機管理担当主体のもとに研修も行われている。	虐待防止検討委員会は身体拘束適正化検討委員会と同時開催し、その中で年2回開催している。特に虐待に繋がりがかねない不適切ケアについても具体的な事例を話し合い防止に努めている。また、研修の他、ストレス対策や働きやすい職場づくりにも取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加し、伝達講習を行い全職員が情報を共有、理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査の段階からご家族様に料金説明や大まかな契約内容の説明等を行っている。入居時は契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、入居者様やご家族様に不安・疑問点など尋ね、十分に話し合い理解・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日々コミュニケーションを図り、いつでも職員に対し意見や要望が表出できるよう努め、職員は訴えを傾聴・対応するよう努めている。ご家族様とは電話や面会時、情報交換を行い指摘等があれば速やかに対応できるよう努めている。	利用者からは日々の生活の中で要望を聞き食事や行事に反映している。家族からは面会時やプラン見直し時に意見を聞く他、電話で利用者の状況を伝えながら意向を確認し支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々コミュニケーションを図り、業務内容や会議、申し送りの際などで意見や提案を聞くよう努めている。	報連相を重視した職場づくりに努め、連絡ノートで要望を共有し、シフト調整など職員間の協力体制を築いている。管理者は、職員個人から相談を受ける他、直接職員に声をかけ早めに要望や不満を聞き取り、シフト調整など運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、仕事に関しての意欲や姿勢を把握し、処遇に反映させている。自己評価シートを実施し、適切な評価を行っている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、外部研修の参加は出来なかった。個々の力量を把握し、それぞれに合わせたスキルアップや、資格取得の為に勉強会や研修を行っている。	職員のスキルに合わせた法人研修やWeb研修、事業所内研修を行い職員育成に努めている。新人には先輩職員がOJTを実施している。また、資格取得研修には受講料を補助し、資格取得を奨励している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの緩和に伴い、会議等で同業者と交流する機会が少しずつ増えてきている。また、職員も交流する場を作り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人要望や困りごとなどの不安を取り除き安心に繋がるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用導入時より、良い生活が出来るよう要望等取り入れ、ご家族様が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を見極め必要に応じたサービスを導入し、必要に応じた他のサービス利用の検討に努めている。申し込みの際などに他の施設等の情報も提供するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースに合わせて、出来る事はやっていただきながら関わり合えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現在の状態や気になる事などこまめに相談し、良好な関係を築けている。また、ご家族様と情報を共有するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により、面会の制限を行い、病院受診以外の外出・外泊の機会が少なくなっている。面会や、外出の希望がある場合は、事前に連絡や相談をいただき、関係が途切れない様支援に努めている。	玄関先で10～15分の面会が可能となっている。家族の希望で葬儀や外出に出かける利用者もいる。電話で家族や友人と話す機会もある他、家族から届いた写真を部屋に貼るなど馴染みの関係を継続できる取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないよう入居者様同士の相性や心身状態を考慮し席替えやレクリエーション等に職員が積極的に関われるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行っている。他施設に移られた際は問い合わせの対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通し、本人の思いや意向をくみ取り、本人のケアの検討に努めている。	部屋担当に加え管理者も利用者本人と話す機会を持ち、思いや意向の把握に努めている。過ごし方や外出希望、食べたいものなどを把握し支援に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や関係者様からの情報収集を行い、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や過ごし方の観察を行い自分のペースで過ごせるよう現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い介護計画を検討していく為、本人・ご家族様の意向等に寄り添った話し合いができるよう関係者を含め連携をしている。	本人や家族から状況や要望を聞くとともに入院先の主治医や看護サマリーからアセスメントを行い、担当者会議に諮って介護計画を作成している。入居時は1か月、その後はモニタリングを行い3か月毎に見直しをしている。モニタリングは居室担当から支援状況を聞いて計画担当が行っている。	長期目標や短期目標は利用者本人の課題と関連性を持たせることでより良いサービスにつながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践の見直し等に活かすため、日常生活での気づきや工夫を記入し、より良いケアを提供していく為に、ケアの実践の見直し等に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応できるよう説明や手続き申請を行っている。訪問マッサージ等業者を取り入れ必要に応じ支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為外部との交流は出来なかった。共有スペースでは十分な換気、向かい合わせにならないよう入居者様同士の距離や席など考慮し工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の心身状態、ご家族様の状況・希望に応じかかりつけの受診をしている。訪問診療体制を構築、適切な医療を受けられる様支援している。	入居時に受診先について利用者・家族と話し合い、殆どの利用者は協力医を希望し、月1回の往診を受けている。かかりつけ医受診時は家族が同行し、家族へ介護サマリーを託し、受診結果を口頭で得ている。また医療連携の看護師の訪問の他、法人の歯科衛生士の巡回や訪問診療歯科医による受診等、適切な支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携の看護師に診て頂き、看護師に入居者様の心身・状態・変化を報告話し合いをしている。適切な治療を受けられるよう支援していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナウィルスの影響により面会できないが、病院担当者の方と電話で情報交換を行っており、主治医・相談員と情報を交換を行っており、かかりつけ医に報告、早期に退院出来る様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族様に重度化した場合や終末期の希望について確認を行っている。また、重度化してきた場合にはその都度利用者の状態説明を行い、今後必要と思われる支援等を話し合うようにしている。医師とも相談し助言等を頂いている。全職員が、ご家族様の意向に沿ったケアが出来るよう把握し、共通の認識で対応している。	入居時に終末期の看取り等について事前確認をし、重度化時に主治医が家族と事業所管理者に病状を説明している。家族が事業所での看取りを希望する場合は、全職員で看取りケアについて再確認している。また、毎日バイタルを主治医に報告するなど、主治医・家族・職員がチームとなって看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月一回程度本社の消防担当の方に来ていただいていたが、新型コロナウイルス感染症予防の為、ホームの防火管理者が指導を行っている。救急救命の訓練を全職員が訓練を実地、実践力を身につけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回訓練を行い、災害等に対しての知識を学んだり、年2回実際に利用者にも参加いただき実践に近い形での訓練を行っている。地域の地元消防団の方との連携も図っているが新型コロナウイルス感染予防の為、消防団の方々の訓練は出来なかった。	年2回消防署立会いの総合避難訓練を計画し、すでに1回実施し、地域消防団の参加協力を得ている。また、不審者対策や連絡網・搬送訓練、消防設備等の操作訓練を実施している。水や食料等は3日分備蓄している。災害時の法人応援体制も整えている。BCPは作成しており、計画内容と現状を検証中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修・勉強会を通し尊厳ある介護理念を認識、実施している。入居者様一人ひとりの人格を尊重し、尊厳が失われない様な声掛けをしている。個人情報取り扱いについても周知徹底を図り、秘密保持に努め、個人情報を書いてある書面は施錠し保管している。	接遇やコンプライアンス等について、計画的に外部研修やeラーニングを活用した内部研修の他、年2回虐待の芽チェックリストを実施している。一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の好きな事・得意とする事など、自己が活躍出来る環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調や気分に合わせて、意思を尊重した1日が過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を活用し、整容が出来るよう見守りをしている。本人の好みを取り入れ、おしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者様の機能に応じた食事の形態にしている。入居者様の楽しみにしている行事食を多く取り入れ季節を感じてもらおう工夫をしている。	チルド食を利用している。マンネリ化を防ぐため、月1~2回行事食を実施し、食材は地域の農産物直売所等を利用し、利用者も同行し好みのおやつ等を購入している。行事食の時は利用者と共に調理し、食事を楽しんでいる。また、おやつには職員手作りのものや希望する地域名物まんじゅう等を提供し、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録している。水分摂取が難しい方は好みの飲み物、ゼリーなどで摂取出来る様にしている。介助が必要な方はその時の状態に合わせて介助にて水分を摂取していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにより一人一人の口腔状態や本人の能力に応じた口腔ケアを行っている。出来ない部分は介助している。歯科衛生士とも連携し、通院が必要な方の支援もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センサーを使用し、個々の排泄パターンを把握している。自立排泄の困難な方についてはベットとトイレの位置までの動線を短くし、転倒リスクの軽減を図っている。場合によってはトイレまで同行し、介助を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、仕草や表情を見ながら居室のトイレへ誘導している。また、頻回にトイレへ行く方には転倒防止のため、センサーチャイムを活用して安全に配慮しながら排泄の自立支援をしている。排便コントロールが難しい方には、主治医と相談し服薬を調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し活用している。主治医の指示のもと排便が見られてない際は下剤を服用している。必要に応じて乳製品も摂取している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴管理表を活用、入浴習慣や好みを把握し楽しく入浴が出来るよう工夫し支援している。体調・心身の状態に合わせて、清拭や足浴・シャワー浴などを行っている。	入浴は週2回を基本とし、午前と午後に希望した時間帯で支援をしている。また、回数にこだわらず希望時はその都度入浴支援をしている。入浴時は、一緒に着替えを準備し、拒む方へは声掛けや好みの入浴剤を提供する等、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後休みたい方は休んでいただき、休まない方はゆっくり過ごせるようご自身の好きなようにしていただきながら、本人の意思を尊重している。就寝時間も特に定めず各々の生活リズムに沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の方と連携を図りながら、薬の注意点などの把握に努める。薬の変更があった際は他の職員が分かるよう薬箱に明記するなど工夫している。症状の変化があった場合には医師と相談し薬の調整を行ってもらい、薬の理解を深めている。服薬時は一人一人確実に服薬したか目視確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、声掛けにて出来る事を楽しみながらしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社用車を使用して外出可能な方に桜や紫陽花をドライブ見学で楽しんでいただいた。また、一緒に散歩や買い物に出掛けたりする機会を取り入れ、支援している。	法人のバスを利用し花の見頃に合わせ、地域のおじさい寺や四季の里、昔から馴染みのある城山周辺等へドライブに出かけている。また、事業所が風光明媚な場所にあり、希望に合わせ近くの池や花を見に散歩に出かける等、外出の機会を多く設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得ながらお金を所持できる方には所持していただいている。本人が希望する飲料や消耗品など家族と相談し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて電話を使用していたいたり、電話の取次ぎを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・リビングの換気は新型コロナウイルス感染症予防もあり、十分に行っている。季節により室内の温度調整をし、快適にすごせるよう支援している。共用スペースは季節に合わせて利用者様と作成した作品など掲示し居心地が良く過ごせるよう支援している。	居間は2ユニット共有となっており、ユニット間の協力体制が引き出せるようになっている。壁には利用者の作品が飾られ、前事業所からの馴染みの鉢植えや金魚の水槽も置かれている。日中ほとんどの利用者がリビングに集まり過ごしている。玄関や廊下も広く明るく安全への配慮もされ、職員は室温の調整や換気にも心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、好きな場所でゆったりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自宅で使用されていたテレビや衣装ケース、仏壇などをお持ちいただき、馴染みのある物と共に安心して暮らせるよう支援している。	自宅でこれまで使っていた寝具やタンス、テレビ、家族写真の他、仏壇、遺影等を持参している方もいる。居室には家族からのプレゼント品や日中活動で作成した作品等を飾り、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。また、家具やベッドの向きは利用者の生活習慣やADLに合わせ、使い勝手よく配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のADLに合わせて、症状に応じた介護用品を使用し、残存機能を長く維持して生活が出来るよう支援している。		